

お茶をおいしく入れるコツは？ 2/10

基幹産業である茶業への理解や愛着を深めてもらうことを目的に開催

「お茶の入れ方教室」が中川根中学校で開かれ、2年生33人が川根茶業青年団の団員8人からおいしいお茶の入れ方を学びました。

最初に講師の代表が、おいしくお茶を入れるための手順やコツについて実演・説明をしました。次に、生徒らはグループに分かれて、実際に1人ずつ順番に茶を入れて味わいました。普通煎茶だけでなく、玉露やほうじ茶、全品入賞茶などが用意され、生徒は、1煎目と2煎目で味が変わることには驚いたり、さまざまな種類の茶の味を楽しんだりしていました。



講師が見守る中、グループのメンバーにお茶を振る舞う生徒

3/8 一面に咲き誇るシバザクラを期待

流域9市町(島田市・焼津市・掛川市・藤枝市・御前崎市・菊川市・牧之原市・吉田町・川根本町)で構成



4月下旬から5月上旬には、見頃を迎える予定です

長島ダム周辺にて「大井川長島ダム流域連携協議会」主催のシバザクラの植栽イベントが開催され、大井川流域から参加した240人が約6,000株のシバザクラの苗を植栽しました。

流域の住民同士が交流し自らの手で苗を植えることで、水源地域を守り育てる意識やダムへの親近感を育むことを目的しており、植栽終了後はダムの堤体内部の見学会を実施しました。

また、昼食会場の長島ダムふれあい館では軽トラ市も出店され、参加者は本町の味覚や出店者との会話を楽しんでいました。

育児中でも参加しやすい環境づくり 2/10

町社会福祉協議会が「託児ボランティア養成講座」を開催

託児ボランティア養成講座が全3回の日程で町内各地にて開催され、15人が受講しました。

一時的にお子さんを預かる託児ボランティアを養成し、子育て中でも地域活動に参加しやすい環境を整備することが目的で、川根北分遣所や町の職員が講師を務めました。

第2回は川根北分遣所の大関佳典救急救命士が、子どもの事故と安全対策について講話し「子どもは体調が悪くても、周りに訴えることができない場合がある。呼吸状態に注意して、ためらわずに救急車を呼んで」と呼びかけました。



訓練キットを用いてAEDの使い方も学びました

3カ月後の再会を楽しみにして 3/6

地元住民と中川根第一小4年生がときどんの池で蛍の幼虫を放流

ときどんの池ホタルを育てる会(橋本務会長)会員12人と中川根第一小4年生の7人が、9カ月間育てた約200匹の蛍の幼虫を徳山区の「ときどんの池ホタルドーム」に放流しました。

放流会には県ホタル連絡協議会の落合孟郎会長も参加し「蛍の飼育を通じて畏敬の念と優しい心を育んでもらえたら」と笑顔で話しました。

同会は放流した幼虫が成虫となる6月に鑑賞会を開催する予定で、中川根第一小4年の大橋優也さんは「真っ黒な幼虫が大きくなって光り輝くことがとても楽しみ」と話しました。



体長2・5センチほどの幼虫を放流した児童

2/15 「まちの強みを生かす戦略を」

かね四季の会(太田起博代表)主催の第8回未来座談会、約100人が町の未来を考える



「目の前が明るくなる話」と題し、前向きな議論となりました

県の大須賀淑郎副知事と旧中川根町助役の土屋優行経営管理部長、ケーブルテクニカの石田吉央社長の3人をゲストに迎えた第8回未来座談会が茶茗館で開催されました。

大須賀副知事は、指標からまちの現状を分析した上で「まちの強みを他地域と差別化し、どう発信していくかが鍵」「情報通信手段の強化は、定住促進・交流人口拡大にも必須」と話し、土屋部長は県財政を説明し「将来を見据えた投資を行うべき」と提案しました。石田社長は「今ある財産を生かすことが大切」と訴えました。

山口教平さんが県知事賞を受賞 2/15

「いい歯のお年寄り8020コンクール」で最高賞

静岡市のグランシップで「いい歯のお年寄り8020コンクール」(静岡県歯科医師会主催)の表彰式が行われ、山口教平さん(藤川=88歳)が最高賞の「県知事賞」を受賞しました。

山口さんは、町民を対象に開催された「いい歯☆キラリ☆番人の歯コンクール」金の部(満80歳以上)で第1位に輝き、榛原歯科医師会より本コンクールへ推薦されました。34市町から計1214人の応募があり、県歯科医師会が歯の本数や状態、年齢、生活習慣などを点数化して審査しました。



山口さんは88歳にして自分の歯を30本保っています!